

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4091600033, 医療法人 布仁会).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人が明るく元気に日常生活ができるよう支援します。可能な限り、個々の生活歴や趣味が継続して実施できるように支援します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL (https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kani=true&jigyosyoCd=4091600033-00&ServiceCd=320&Type=search).

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 公益社団法人福岡県介護福祉士会, 福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階).

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、4階建ての建物の3階と4階にある。道を挟んだところには母体となる外科病院があり、体調不良など変調時にはすぐに対応でき、利用者や家族の安心に繋がっている。各フロアには、絵画や仏像などが展示され、ダイニングルームには大きめのソファやテーブルがありゆったりとした雰囲気の中、利用者はリラックスして過ごしている。各居室は、作り付けの机やクローゼット書棚があり収納も多い。職員は理念のもと、利用者一人一人の安寧を願いながら業務にあたっている。コロナ禍以降、地域との交流は少ないが、今後も地域に根差した施設として期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Description, Achievement (radio buttons), and Evaluation (radio buttons). Rows 58-64 describe staff and user satisfaction, while rows 65-70 describe staff and family satisfaction.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先や詰所内に掲示を行い、日々理念の共有をしている	玄関に大きく理念を掲示しており、職員は出勤時に目にしている。職員は理念に共感しており、感謝の気持ちを持ち利用者一人一人の安寧を願いながら日々の支援を行っている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域との交流が減っているが行事の参加に声を掛けてもらっている	新型コロナが5類に移行して、近隣への散歩や近くのパン屋に出かけた時には、近所の方と挨拶を交わしている。近隣の住人が野菜や花を持って来られたり、正月には、近くの神社のしめ縄に利用者の願い事を書いた紙を練り込んでもらったりしており、交流の機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や老人会、民生委員等を通じて支援している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や事業所の取り組みについての報告や地域との情報交換を活かしサービスの向上に努めている	コロナ以降、リモートや書面などの開催になった時期もあったが、2ヶ月に1度、対面で行っている。地域住民の参加が難しく、市介護保険課や地域包括支援センターの参加により意見を交換している。今後は、社会福祉協議会の参加も予定している	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等の機会を利用し、市の職員に相談や報告を行っている	コロナ禍での面会や、5類に移行してからの面会の在り方等の相談や加算について等の不明な点は、運営推進会議開催時や窓口に出向く等、都度相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度勉強会を開催し、身体拘束を行わない取り組みをしている	定期的に法人全体で研修を行ったり、事業所単独で勉強会や研修を行っている。身体拘束について職員は意識して業務に取り組んでいる。職員同士、不適切だと気付いた時にはお互いに注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で設置している委員会の勉強会に参加し、その内容を伝達講習を行い、全職員に周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者や家族が必要とした際に、活用できるよう支援している	新入社員のオリエンテーションや法人内での研修で勉強する機会がある。現在は、入居前から成年後見制度を利用している利用者がある。他の利用者は家族の協力もあることから日常生活自立支援事業を利用している方はおらず、必要時には管理者に繋ぐ体制を確保している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、個々に説明し同意を得ている。重要事項説明書等の内容に変更があれば事前に説明を行い、同意を得ている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度、運営推進会議の場を設け、市の職員方や地域の代表の方々に報告を行い率直な意見をもらい、サービス向上に反映させている	家族の訪問時には、本人の様子を伝えるとともに家族からの要望を聞き取る時間を設けている。遠方の家族には、お便りを送り、電話などで聞き取りを行っている。要望や意見が出た場合は都度検討するようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングをはじめ、申し送り時や業務中等、事があるごとに職員の意見や提案を聞き、反映させている	職員は、設備面やサービスで気づいた事や提案などを積極的に話せる環境がある。管理者は意見が出た際、事務長に伝え希望が反映されるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務態度が反映されるよう皆勤賞や永年勤続表彰の他、キャリアアップ等の職場環境の整備に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては男女や年齢も70代まで個人の力が発揮できるよう他の職員とも協力し合って配慮している	職員の年齢層の幅は広く、希望の休みも取りやすいよう配慮がなされている。また、職員が資格取得を希望するときには、取得しやすいよう勤務を工夫している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内での勉強会を通し、職員全体に人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入社時のオリエンテーションや法人内での研修を行っている。職員は、利用者や職員間の人権について研修を通し理解できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修やミーティングに算会、職員一人一人が把握した上で外部研修を促し、業務中に起きた問題等に対処できるよう取り組んでいる		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や勉強会等を通して、相談しやすい場を設け、他施設への訪問等も交えサービスの向上を図っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困難事項に早期に対応し、利用者のニーズを十分に聞き入れ、信頼関係を築けるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者や家族の意見や困っていること、不安に思っていることを十分に聞き、ニーズを引き出す努力を行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を見極め何が必要か他のサービスも視野に検討するよう努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体操を一緒に行ったり、タオルたたみや物作りなど共同で行い関係性を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の思いや関係性を尊重し、面会や外出、電話等の支援を行い、お互いが安心できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナでの制限が緩やかになり、家族や友人との繋がりが途切れないよう面会や外出、電話等の支援を行っている	コロナが5類になったことで制限が緩和され、本人に馴染みのある美容院やパン屋などへの外出支援を行っている。、遠方で面会ができない家族とは電話や手紙などで関係が継続できている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や関係性を把握し、困っていることや異変がないかを観察して、職員からも声掛けを行い、利用者同士が良い関係を築けるよう努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人や家族のフォローや相談に努め、要望に応えられるよう支援を行い、関係性の継続に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を確認、尊重し、その人らしい暮らしができるよう努めている。困難な場合には本人や家族に説明を行い、理解を得ている	職員は、常日頃から利用者の話に耳を傾けることに心がけている。入浴時にゆっくりと1対1で会話することで希望や思いを聞き取っている。自分から発することが難しい利用者には表情から思いを察して本人本位に意向が把握できるよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より生活歴やサービス利用の経過等の情報収集を行い、その人らしい生活ができるよう支援している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方やその日の心身状態、体調等を観察し、現状把握に努め、安心安全に生活できるよう支援している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の課題やケアをミーティングや担当者会議で検討し、家族や他職種から意見を介護計画書に反映し、作成している	担当制をとっており1人の職員が2～3名の利用者を担当している。アセスメント・モニタリングは担当者が行い、家族には訪問時や電話の時に確認、主治医や訪問看護師には診療時に意見を聞き、それを基にカンファレンスにて職員全員で話し合い作成している。変化があった場合はその都度、計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人記録(タブレット)に日常のケアの実践、結果、気づき等を記録し申し送り等で職員間での情報収集に努め実践や介護計画に活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況やニーズを理解し、その方にあったサービスを提供する為に他職種との連携を図り柔軟な支援サービスに努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ここ数年コロナもあり地域交流はできていないが、地域の方々から頂いた季節の花を飾る等して楽しめるよう支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に寄り添い、適切な医療機関での受診ができるよう支援に努めている	入居時にかかりつけ医の変更は求めておらず、殆どが母体の病院への変更を希望している。物忘れ外来や他科受診は家族が送迎し受診している。主治医より情報提供書が出ることもあり、家族へ状態を伝え、受診後は家族より結果の確認を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を常に観察し、変化や異変が見られた際は提携の医療機関の看護師に相談し、適切な受診や看護を迅速に受けられるよう体制を整えている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師、看護師、ケアマネより早い段階での情報交換を行い、退院後、円滑に利用者のケアを行えるよう連携に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望を尊重し、ケアマネや提携医療機関の医師、看護師等と連携を図りながら、気持ちに寄り添えるよう支援に取り組んでいる	事業所での看取りは行っていない。重度化した場合は事業所でできることと出来ないことを説明し、本人の状態や家族の希望を踏まえ方針を共有している。母体が病院であるため医療的ケアが必要になった場合は殆どの家族が病院へ入院することを希望される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応のマニュアルを作成して速やかに医師、看護師へ報告できるよう周知徹底している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回全職員対象の火災訓練を実施 水害対策として防水壁の設置と止水版設置の訓練、法人内での災害時の応援体制の整備を行っている	年2回火災訓練を行っている。豪雨に備え止水版設置の訓練を数回行っている。火災訓練時にサイレンを鳴らすので近隣に広報しているが訓練の参加の呼びかけには至っていない。非常食は一部事業所内に保管しており、大部分を道を挟んで前にある系列の老人保健施設に共同で保管して、消費期限管理ができています。	有事の際は人的支援が必要になるため、近隣地域の方との協力体制の構築にむけて検討することを期待したい。合わせて持ち出し品や避難経路の周知など災害時対応についても今一度検討の機会を持つことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や歴史を尊重し、その人らしく穏やかな生活が送れるよう誇りやプライバシーに配慮した言葉の掛けや対応に努めている	本人の誇りやプライバシーを傷つけないような言葉かけに心がけている。相応しくない言葉かけ見受けた時は職員同士で確認しあえている。トイレや居室のドアを開けたままにしないように配慮している。記録類はタブレットで行っており暗証番号がないと開けない仕組みになっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の生活の中での希望を尊重し、その思いを汲み取り自己決定できるよう支援を行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースと希望に合わせて援助を行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見せて本人の好みに化粧や髪型、服装等がなっているか本人に確認し、個人の好みを尊重しながら支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時々に合わせて、好みのふりかけや佃煮を使ったり、副菜の量を増やしたり等して、利用者の希望に沿った食事の提供を行っている	系列の老人保健施設でグループホームからも職員を一人派遣し共同で作っている。盛り付けや食器拭きは利用者の好みや力を活かし行っている。献立を変えることは出来ないが主食をパンからご飯に変更したり、納豆が嫌いな場合は卵かけごはんに変更できる。誕生日や行事食も取り入れ食事が楽しくなる工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取チェック表で1日の摂取状況を確認 食事形態も個人の状態に合わせてキザミ食やトロミを付けたりと食べやすいように調整している 水分補給は午前と午後行っている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝前に義歯を外して口腔ケアを行い、義歯もポリドント等で洗浄し、清潔保持に努めている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時とその日のトイレの使用頻度を見てトイレ誘導を行っている 排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を行っている	排泄チェック表で排泄の間隔を把握したり、申し送りの時の報告や、本人の表情から読み取りトイレ誘導をしている。大容量のパットを利用している利用者が個別の対応により、日中は小さ目のパットに変更できた事例がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取して頂くように声掛けを行っている 腸の動きを観察し、排泄チェック表の記録を行い、3日間便がない場合は医師の指示を仰ぎ、対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施 拒否がある際には対応スタッフを代わるなどして対応している 湯加減や時間帯は本人の希望に合わせて実施している	週2回の入浴を実施している。入浴を拒まれる場合は時間を置いて再度声掛けを行ったり、対応者を変えて声掛けを行っている。無理強いすることなく足浴や部分清拭、更衣等により清潔が保てるようにしている。入浴剤を入れたり、季節のゆず湯を楽しむこともある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は体操を促したり、傾眠がある方は午睡をして頂いている 夜間は利用者が安心して眠れるよう希望に沿った時間帯で本人に合わせた寝具や寝衣で休んで頂いている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を元に内容の把握に努めている 服薬の準備から服用までダブルチェックを行い、支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフと一緒に作品作りや体操、歌、レクリエーション、野菜作り等を行ったり、洗濯物をたたむ等の役割を持つことで、気分転換ができるよう支援している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や温泉旅行等の外泊など、家族の協力のもと、希望時に行けるよう支援している	まだ感染症対策をしながらの日々なので、以前のような外出はできていない。その中でも家族の協力を得て外出や外泊をされる利用者もある。家族との外出が難しい場合はベランダで外気浴をしたり近くに散歩に出かける支援をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自分でお金を管理できる方がいない為、お金の所持をしたり使えるような支援ができていない		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各個人自由に携帯電話や固定電話を使用している 手紙を送る際にはスタッフが支援を行っている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花やその季節に合った置物や、絵などを飾る等して、季節を感じて頂けるよう工夫している	共用空間にはゆったりと座れるソファをいくつも置いている。利用者はソファやテーブルの椅子に腰かけたりして思い思いに過ごしている。室内は落ち着いた色でコーディネートされている。リビングには季節の花が飾られたり掃き出し窓からは遠くの山が一望でき居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビや新聞を設置したり、談笑しやすい空間を作り、自由に過ごせるよう工夫している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物を近くに置いたり、家族の写真を飾る等して安心して過ごせるよう工夫している	クローゼット・書棚・ベット・布団は備え付けとなっており落ち着いたな色合いでコーディネートされている。テレビを持ち込んだり、家族の写真を貼ったり、手作りの小物を飾ったりして本人が居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内で移動時に支障をきたすような物を置かないよう配慮し、安全に移動できるよう工夫している		